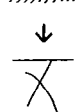


五

一年

画数 4
筆順
オン
クシ

一 ア 五 五
ゴ
いつ・いつ二つ



成り立ち

天と地とがまじわることをあらわした字です。むかしの人は、天と地がまじわって「木・火・土・金・水」の五つがうまれ、この五つからすべてのものができた、とかがえていました。それで天と地とがまじわるかたちで「いつつ」をあらわしました。

使い方

▽ふじ山のふもとに湖が「五つ」あります。「ふじ五湖」といいます。「五日」まえにいききました。

熟語例

- ▽五穀（こめ、むぎ、あわ、きび、まめ、五つの穀物のこと。「いろいろな穀物」のいみにつかいます。）
- ▽五官（目、耳、はな、口、ひび、五つの感覚器官）
- ▽五感（五官が感ずる五つの感覚。みる、きく、かぐ、あじ、はだざわり、の五つです。）
- ▽五風十雨。▽五臟六腑。▽五里霧中。▽五十歩百歩。

口

一年

画数 3
筆順
オン
クシ

コウ・ク
コウ・ク
ク



成り立ち

ひとの「口」のかたちをあらわした字。「くち」といういみの字です。また、「口からでる「ことば」といういみにもつかいます。

「ひとかず」のことを「人の口」とかいて「人口」といいますが、それは、「ひとかず」のことを「くちかず」ともいったからです。人のかずと口のかずとはおなじですものね。

また、「いりぐち」といういみにもつかわれます。口が「たぐもの」「いりぐち」だからです。「口絵」はほんのはじめ（いりぐち）のところにのっている絵のことです。このように「口」は「ものごとのはじめ」といういみにもつかわれます。

使い方

- ▽おおきな口をあけてうたいましょう。
- ▽あのは口のききかた（ことばのつかいかた）をしらないことだ。
- ▽この河の河口はひろいので、むこうぎしがみえない。
- ▽あの一ひとの口調ははやすぎて、いうことがよくわからぬ。

熟語例

- ▽河口（河がうみにはいるところ。河からうみへの出口）
- ▽口論（口でいいあらそうこと。口げんか）
- ▽口調（ことばの調子。いいかた。はなしかた）
- ▽口に密あり、腹に剣あり（口ではうまいことをいうが、こころのなかではおそろしいことをかんがえていること。しんせつにみせかけてひとをだますこと。）
- ▽口耳の学（耳できいたばかりでまだよくりかいしていないことを、しったかぶりして口にするたいど。うけうりの学問。うすつべらな学問）
- ▽鶏口となるも牛後となるな（いくらちいさくても、牛のしっぽになるよりは、鶏の口になったほうがよい。なんでも「かしら」になったほうがよい。）